

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2672700313
法人名	医療法人弘愛会
事業所名	グループホームさくらプラザ倉梯
所在地	〒625-0055京都府舞鶴市倉梯中町3番地の2 (電話)0773-65-2130

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年9月16日	評価確定日	平成21年10月5日

【情報提供票より】(平成21年 8月 18日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 12月 25日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 3人, 非常勤 5人, 常勤換算	5.2 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	2 階 ~	階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	31,200 円	
敷 金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(7月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.8 歳	最低	71 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	(独) 国立病院機構 舞鶴医療センター、(医) 弘愛会 西村内科
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR東舞鶴駅から少し離れた住宅地に、医療法人弘愛会の運営する当該グループホームがあります。1階がデイサービスがあり、その2階に位置しています。法人の理念をもとに「一緒にゆったり楽しい共同生活」という標語を掲げています。地域に根差した取り組みや働きかけをされており、近隣の小学校や保育園との交流、地域の清掃活動、こども110番の家の登録等、地域への貢献にも取り組んでいます。医療法人の特性を生かし、週1回の医師の往診、週3回の看護師の訪問、月1回の歯科の訪問などがあり、24時間通して連携がとれ安心できる医療体制が整っています。また、職員を育てようという思いがあり、充実した研修が行われています。管理者は、職員の能力や経験年数に応じた研修を指定し、職員全体がスキルアップを図れるように配慮しています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の結果を受けて、家族等への報告や意見の反映等について等、前向きにできることから取り組まれています。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果を職員に伝え、自己評価実施の意義と理解を深めています。今回の自己評価票は、管理者と職員3名がまとめて記入しました。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、利用者や家族代表をはじめ、地域住民代表、市職員等が参加し、2ヶ月に1回開催されています。会議はホームの活動や事業予定を報告するなどの内容となっています。また、参加者の意見交換の場もあり有意義な会議となっており、そこでの意見や情報を運営に役立てるよう取り組んでいます。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族からの意見・要望を聞く機会を多くするために、家族参加型の行事を開催したり、面会時にも聞くようにしています。出てきた意見等はミーティングで話し合い、対応策を引き継ぎノートに記載し職員間で共有しています。家族には口頭で報告しています。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に入り敬老会や地区の清掃活動、神社の祭りなど地域の行事に参加されています。また、小学校の課外授業を受け入れたり、近隣保育園の運動会へ参加するなど交流を図っています。こども110番にも登録し地域との関わりに積極的に取り組まれています。また、運営推進会議を通じて地域へホームの理解を得られるよう取り組み、年末の餅つきには地域の方の参加がたくさんあり、開かれたホームとなっています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念のもと「いっしょに、ゆったり、楽しい共同生活」という標語をつくり、玄関の見えやすいところに掲げています。ホーム独自に地域密着型サービスとしての理念は作られていません。	○	職員間で話し合い、ホーム独自の地域密着型サービスとしての理念をつくられることを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に職員が意識できるようにカードの両面に法人の理念と標語が記載されたものを携帯し、日々の支援が理念の実践となるよう取り組まれています。また日々のミーティングで確認しあい、理念に立ち戻る機会とされています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、老人会や地区の清掃活動、神社の祭りなど地域の行事に参加されています。また、近隣の小学校や保育園の運動会へ参加するなどの交流も図っています。子供110番にも登録し、地域との関わりに積極的に取り組んでいます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、管理者と常勤職員3名でまとめました。前回の評価の結果を受けて、家族等への報告や意見の反映について等、前向きに話し合い、できることから取り組まれています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者・家族代表をはじめ、地域住民代表、市職員等が参加し、2ヶ月に1回開催されています。会議はホームの活動や事業予定の報告などの内容となっています。また、参加者の意見交換もでき、有意義な会議になるよう取り組まれています。		

グループホームさくらプラザ倉梯

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	舞鶴市主催の研修会に協力したり参加をしています。市担当者は協力的であり些細な相談にも応じてくれ、市と共にサービスの向上に向けて取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2か月に1回、日頃の暮らしぶりを書いたお手紙と食事外出等行事の写真を送っています。また不定期ではあるが機関誌を郵送したり、家族の来訪時や電話などでも報告しています。預かり金については、領収書を送付し報告し確認をとっています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望を聞く機会を多くするために家族参加型の行事を開催したり、面会時にも聞くようにしています。出てきた意見等は、ミーティングで話し合い対応策を引き継ぎノートに記載し職員間で共有しています。家族には口頭にて報告をしています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を防ぐために、休憩時間を確保するための工夫をしたり、個別で話しをする機会を設けるなどして職員のストレス軽減につなげています。また、職員がやる気を起こし向上心が持てるような評価や助言を行ったり、資格取得に対する援助も行っています。新しい職員には1ヵ月ベテランが関わり、声掛けの仕方など細かいところまで配慮をしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修計画があり、スキルに応じて職員を指定し研修を受けてもらっています。時には希望する研修に行くことも可能で、職員を育てる取り組みをさせています。外部研修を受講した際には研修報告書を記入しミーティングの場でその内容を伝達しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都府内のグループホームの任意団体に加入し、年3回管理者研修や職員研修に参加しています。舞鶴市のグループホーム連絡会にも加入し、4か月に1回の研修会や情報交換の場があり、職員のスキルアップにつなげています。また他のグループホームとの交換研修もあり、交流を持ちながら、当該ホームのサービスも振り返る機会とされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前の情報収集のために訪問をし、相手の緊張をほぐすような配慮をしています。また状況に応じて、昼間だけの体験を2週間くらい続けてもらったり、さまざまな体験をして貰いながら雰囲気馴染めるような工夫をしています。慣れるまで、面会をひかえてもらったり、逆に頻回に来ていただいたりしながら環境を整え、本人が馴染めるように配慮されています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に暮らしながら、魚の卸し方や調理の仕方など、助言をもらったり、教えてもらったりする場面が多くあります。百人一首や歌を楽しんだり、家事などお互いに助け合いながら行っています。利用者の中には職員の気遣いをしてくれる人もあり、お互いに支えあう関係を築いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の活用や、日常の会話・表情・行動から本人の思いを引き出し、家族からも情報を得ています。把握した内容をミーティングにて、話し合われています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを基に、利用者、家族の意見を取り入れ、意向に沿った具体的な介護計画が作成されています。職員の意見は、担当者が気になることを記録しそこから課題を見つけ介護計画に反映させています。カンファレンスに出席できない職員からも事前にメモで意見をもらい、職員全員の意見を反映した介護計画となっています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に定期的に見直されています。モニタリングとして介護計画の実施状況を毎日記録に残し、状況の変化があればミーティングにて話し合いをもち、計画の見直しをしています。医師、看護師、家族等の意見も集約し新たな計画を作成しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が行けない時の通院介助の他に、住んでいた家を見に行ったり、友人宅へ出かけるなど希望を聞きながらそれぞれに柔軟な対応をしています。また併設の施設の設備を利用するサービスも提供しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に以前のかかりつけ医を継続されるかどうかを家族と相談し、意向に沿って対応しています。ホームの提携医は週1回の往診があり、看護師の訪問は週3回、歯科は月1回の訪問があります。連携医、看護師の緊急時の往診は夜間対応もあり、利用者をはじめ職員にとっても安心できる関係が築かれています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や終末期のあり方について方針を示し家族の同意を得ると共に対応についての希望を確認しています。実際にターミナルを経験され経管栄養であったが、医師、家族、職員、三者で話し合いながら口からも食べられるようゼリー、ヨーグルト、アイスクリームなど利用しながら最後まで看たという経緯もあります。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は命令的な言葉を発しないよう、ミーティング等で指導をされており、職員は日々、不快な言葉遣いをしないよう心がけています。個人情報の記録物については事務所内の鍵付きの書庫に保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どこかに行きたい、歌が好き、ゆっくり歩きたいなど、個々の希望や状況に合わせた一日を過ごすことができるように支援されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のチラシを見たり、食べたいものを聞いたりしながら、利用者と一緒にメニューを決めています。毎日、食材の買い物に出かけ、一緒に食事作りを楽しんでいます。また、同じ食卓で職員と同じものを食べながら食事の時間を楽しんでいます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	9:00~20:00までの入浴時間が設定されており、週3回は入って頂くよう努めていますが、入浴を希望されない人が多く、声かけに工夫をしながら、入浴が楽しみなものとなるよう取り組まれています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の食事の準備や掃除、洗たく物たたみなど家事を中心としたものや畑に収穫物を取りに行くなどの役割を担っていたり、書道や百人一首、カルタなどの趣味を生かして楽しんでもらうなど一人ひとりの生き甲斐や楽しみごとの支援をされています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の買い物、ドライブ、食事外出など希望にそって支援されています。外出できない時は、中庭に出てバーベキューやお茶をしたり、星のきれいな夜は中庭やベランダに出て気分転換を図るなど、戸外での生活も楽しんでいます。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアについて職員は理解しており、ホームの玄関や居室は空調が入っていないかぎり鍵をかけず、自由に入出りできるよう対応されています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所独自で年2回の避難訓練をしており、災害時には警察と消防署の協力を依頼しています。運営推進委員参加の避難訓練を計画されています。またAEDの講習をされたことがあります。地域住民への働きかけや参加はみられていません。	○	何かあれば地域の方の協力は必要となります。運営推進会議等で近隣の住民の参加を呼びかけ協力体制を築かれることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士の栄養指導が定期的にあります。食事摂取量はそれぞれに記録されており、水分については、いつでも飲めるようにテーブルの上にお茶を置いています。また、利用者の状況に応じて粥食などの対応もされています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは明るく観葉植物や季節の花が飾られ、天井からは立体的な手作りのぶどうがさげられ、季節が感じられる配慮をされています。トイレのドアは色を変えてわかりやすくしています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はフローリングとなっていますが、希望があれば畳、じゅうたんを敷くことも可能です。以前から使われていたタンス、椅子、仏壇、茶道具などが持ち込まれ、個々の利用者の生活に合わせて配置されています。また、アルバムなども持って来られたり、好きなものを飾ったり居心地よく過ごせ安心できる居室となっています。		